

奨励賞



設計担当者

竹原義二

無有建築工房、大阪府建築士会

事務所+店舗(カフェ)/愛知県名古屋市西区

AND PLUS 'SHARE'
OFFICE+COFFEE

構造 | 鉄筋コンクリート造+木造

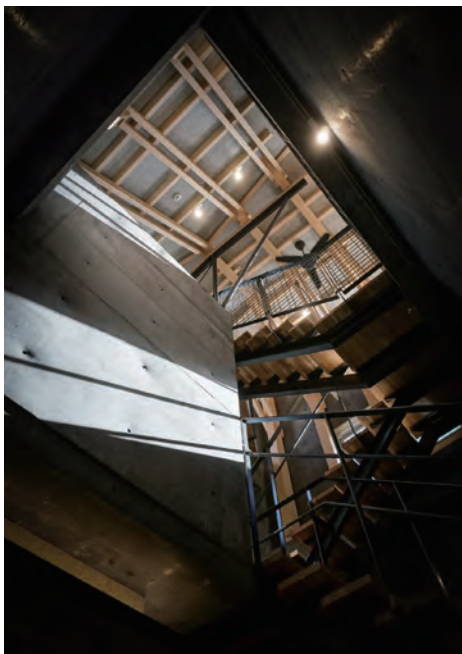
階数 | 地上3階・地下1階・
屋上1階

敷地面積 | 110.41㎡

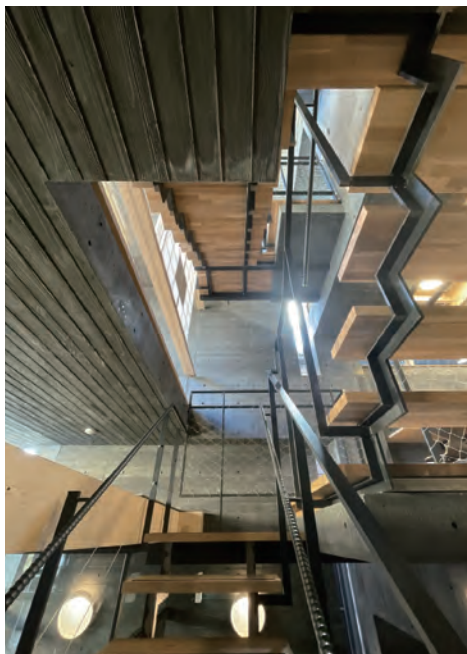
建築面積 | 80.11㎡

延べ面積 | 254.79㎡

竣工年 | 令和3年



1



2



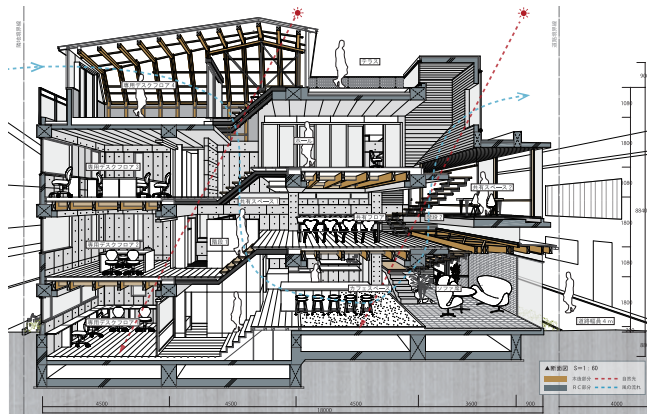
3



4



5



断面パース

- 1 階段1より吹抜けを見上げる。黒いコンクリートによる外殻と無垢材の木架構が空間をつくる
- 2 階段2より共有フロアを見上げる
- 3 RC梁とアンカーで緊結され上部が片持ちとなったヒノキの無垢材の柱が720mmの間隔で連続し、合わせ梁工法による屋根架構を構成する
- 4 共有フロアより階段2を介して共有スペース2を見通す。スキップフロアを構成する建物の構造体を現して表現し、防火性や居住性を確保しながら内外をつなぐ多様な関係性を生み出す
- 5 前面道路(幅員4m)より見る。道路側はRC壁とスラブによる1.5層分の高さを持つ空間に、木造の格子梁を挿入して、入れ子状に居場所をつくる。一部透かし積みや開口などの操作により、内外をつなぐ中間領域とした

選評

工夫と思うと、建築ほど多岐多数に亘る工夫が多い分野はないのでないだろうか。ハードからソフト、大小、全体から部分、施主からつくり手や行政まで数え上げたらキリがない。しかも一つの工夫が簡単なことではない。この作品は膨大な数とそれらを束ね筋道をつけた工夫の宝の山であり、加えてまわりを引きつけ参加させてしまうという他の設計者にはできない技があったように思われる。

準耐火構造(ロー1)の解法に従いながら、スキップフロアと2カ所の階段で空間を分節しながら繋げ、間口の狭い奥行き深い建築の中に、豊かな部分を持った空間を各所につくり出している。特に若い世代が生き生きと働ける環境がいい。玄関に入って、リズムよく歩くといつの間にか最上階のデスクフロア4へ上がり、屋上テラスに至り町を見晴らせる。設計者の意図通り町が、路地が登っていくようだ。墨を入

れたRC打放しの壁仕上げと無垢の木組みの構成、異形鉄筋を用いた手すりをはじめ各所に設計者の着想とディテールの工夫が詰まっている。

聞けば施主自体が工夫の積み重ねで成功されているという。相思相愛という適切ではないかも知れないが、幸せな出会いの中に生まれた建築、評価はもちろんだが、ともに喜び祝したいという思いで賞を贈りたい。(片山和俊)